

天声人語をお題に、読者のみなさんが見出し作りに挑む「まなび場天声人語 見出し講座」は、スタートから1年が経ちました。見出し作りに役立つヒントを編集者がお伝えします。

編集者の添削ノート

4月10日付天声人語 千葉県・60代の方の作品

職場のタケノコたちに養分を

職場のタケノコたちへ 届け養分

「職場のタケノコたち」という表現がいいですね。ニョキニョキと、色々な表情をのぞかせる新入社員たちの姿が思い浮かびます。ただ後半の「養分を」が、やや平凡な印象を受けました。竹先輩はどんな思いで後輩たちに養分を送っているのでしょうか。

私の案は「タケノコたちへ 届け養分」。竹先輩になりきり、後輩たちに届けと祈りながら、つけました。動詞をうまく織り込めば、生き生きとした見出しになります。最後の一ひねりに悩んだら、試してみてください。(今永諒)

編集者の見出しワンポイント座談会

投稿者からは「短い言葉で工夫するの」が大変。入りたいキーワードが長いと文字数が足りない」との悩みが。どんな解決方法があるのでしょうか。

今永 まさに私たちも悩んでいることで、仲間が増えた気持ちです。この言葉を入れない、となると、それ以外の言葉をどう落とすか考えます。あと類語検索はいつもしています。

黒川 類語を調べてすぐに代わりの言葉を見つけていることは実は少ない。出てきた類語からどんどん広げていって、納得できる言葉を見つけていきます。

宮沢 記事の肝になる部分をざっと洗い出して、これは落とせる、これとこれは似た意味だからどちらかでもいい、というように、いったん広くとらえて絞り込んでいく。引き算です。

矢島 どの言葉を落とすか、これを間違

この1年で、特に印象に残る見出しを振り返ります。編集者歴10年以上の4人が選んだのは？

今永 諒 「すり身 変わり身 立身出世」(大阪府・久保裕さん)。「身」が三つ並んでいて、何だろう、読んでみたいと思わせる見出しです。

黒川 真里会 「幸せか? 問える幸せ かみしめて」(神奈川県・恐神麻衣子さん)。通常、同じ言葉を重ねて使うことは無駄とされますが、この場合は「幸せ」が効果的に使われています。「かみしめて」の余韻もいいですね。ウクライナ侵襲のニュースの中、多くの人が共感できる見出しではないでしょうか。

宮沢 賢一 「あの人に 少し近づくと竹の春」(埼玉県・牧千鶴さん)。五七五のリズムがいい。ああいう先輩になりたいな、というイメージが湧く見出しです。

矢島 由利子 ぱつと情景が浮かぶ見出しは私も好きです。「腰抜けし見上げた わくわく世界」(岡山県・小郷知美さん)は、ゴリラとの出会いとその先に広がる豊かな人生が思い浮かびます。

引き算で絞る ■歌や映画も参考 ■自分の感動大切に



②編集者はニュースの大きさや原稿の行数に応じてレイアウトを描く。新聞の文字と同じ大きさのマスキが入った用紙と、専用の物差し、芯が太い色鉛筆を使う
③レイアウトをもとに専用の端末で紙面をつくっていく

えると、意味が通じない・何の話かわからない、という見出しになってしまっています。

「軟らかい表現の見出しの作り方や、考えすぎて一つの案から抜け出せなくなる時の方法を知りたい」という声にも答えます。

今永 「見出しの沼」にはまるとうつて、入りたいポイントがありすぎるとき。全部入れたいと欲張りすぎると、どう表現していいかわからなくなる。ちよつと頭を冷まして、これを捨てたらいいい、とひらめくことがあります。

宮沢 スポーツ紙を学生の頃からよく読んでいました。短い言葉を大きくドーンと載せたり、キャッチーな造語を使ったりすることが多くて、ヒントはたくさんあります。今永 歌や映画などもよく参考にしますよね。

黒川 コラムの見出しは軟らかい表現が多いです。そのうち意味では、天声人語の見出し作りは難易度が高い！

今永 人によって着目するポイントも違いますしね。最初に自分が心を動かされたところを大切に、見出し作りを楽しんでほしいですね。

◆座談会はポッドキャストで聞けます。左下の「見出し講座」のQRコードからどうぞ。

うちなーぐち 誇りの黄金

うちなーぐち 黄金の誇り

沖縄で失われつつある言語を絶やさない、という要素をうたわずに、「誇り」で、守るべき大切なものであることを示しています。惜しいのは「黄金」の使い方です。投稿作の場合、「黄金」は黄金言葉を指していますが、「うちなーぐち」と意味が重複し、もった

いない使い方になっています。語順を入れ替えました。うちなーぐちへの誇りが、黄金と同じ価値であると示せます。「これだ!」と思う見出しができたなら、語順を再考してみましょう。意味合いが変わり、ぐつと良くなる可能性を秘めています。(宮沢賢一)

5月15日付天声人語 神奈川県・10代の方の作品

6月7日付天声人語 千葉県・80代の方の作品

天の竜宮城から命の玉手箱

リュウグウから命の玉手箱

「命の玉手箱」が、とても素敵な表現だと思いました。前半の「天の竜宮城」を「リュウグウ」とした方が、全体的にスッキリして、本来のニュースを損なうことなく、雰囲気も出せる気がします。「天の竜宮城」という表現も、単体では美しいですが、今回は

「命の玉手箱」だけで「竜宮城」を連想できます。「天の」と言い換えなくても伝わります。見出しはシンプルであるほど美しく、印象に残りやすいので、そぎ落とせる表現はないか、ぜひ最後に考えてみて下さい。(黒川真里会)

「大事な点はここ」言える練習に

探究学習の基礎となるのは、読解力。複雑な現実の中から、課題がどこにあるのかとらえ、解決策を考える。そのような力を伸ばしていくためにも、読解と要約は大事です。(談)

新しい学習指導要領の特徴の一つが、探究学習です。テーマを設定し調べて発表する際、自分のメッセージをどう伝えるかという点が最大のポイント。自分たちの研究の大事な点はここ、と言える力はとても重要です。天声人語の魅力の部分はここ、と言える見出し作りは、この練習に役に立つと思います。これは学校だけでなく、仕事をすることになってからもずっと役に立つ能力です。

探究学習の基礎となるのは、読解力。複雑な現実の中から、課題がどこにあるのかとらえ、解決策を考える。そのような力を伸ばしていくためにも、読解と要約は大事です。(談)



渡辺弘・鹿児島大准教授

わたなべ・ひろし 鹿児島大共通教育センター准教授。専門は憲法学や法教育論。大学入試センター試験・共通テストの元出題者。探究学習にも詳しい。

文章の要約は、重要なポイントを余すところなく的確に絞り込む作業だと思います。見出し作りは、さらにポイントを絞っていくことですが、取り組む人それぞれの個性が出てきます。例えば学校で見出し作りを取り組む際は、何を落とすか残すか、というところで個性を競うことができるのではないのでしょうか。

今永 学生の書くものを見てみると、他にはない特徴を表現することが不得意だと思います。具体的な部分を落とすしてしまい、抽象的・一般的な表現になってしまうってしまっています。見出しは、その文章の独自の部分を見つけて作ることで、できごとや文章に特有なことを表現する訓練としてはとてもいい。読み手になる言葉を選ぶ、ということが重要です。この文章を読んで一番驚いたこと、初めて知ったことを見出しにすれば、ほかの人にも共感してもらえるでしょう。

今までの「見出し講座」はこちら <https://www.asahi.com/topics/word/manabibatenjinから>=QRコード。編集者が解説するポッドキャストも聞くことができます。

お題の天声人語の英訳を音声で聴けるようになりました。英訳記事を音声合成システムにより音声化しています。QRコードからアクセスし、記事を読みながら聴いて英語学習に役立ててください。英語音声聴くには、朝日新聞デジタルの有料会員登録が必要です。



英訳音声をながら聴き

2022・7・29

天声人語

黒船の来提督ペリーの贈品でひときり日本人の好奇心を刺激したものがあつた。蒸気機関車の模型だ。幕吏が模型の屋根にむりやり乗り、小さな軌道を回って喜ぶさまを『ペリ提督日本遠征記』が活写している。『き』の東京の「旧新橋停車場」を訪ねると、鉄道開業150年を記念した企画展の一角に「遠征記」もパネル展示されていた。明治5年、この地で開業式が催され、明治天皇や内外の高官が出席。式典を描いた絵からは、新しい国を切り開く気概が伝わってきた。富国強兵のかけ声とともに鉄路は延び続けた。政治家は地元で鉄道を呼び込み、「我田引鉄」と批判もされた。戦後も鉄道は発展の象徴で、田中角栄元首相は「地方の経済発展のためやむを得なければ、鉄道は赤字を出してもよい」と言い切った。だが、いま列島のローカル線から上る悲鳴は深刻だ。JR東日本が示した路線図を見て、利用者が少ない「黄」と「赤」の線の多さに驚く。花巻・遠野、小淵沢・小海など、かつて旅した区間も黄と赤のまだら模様だ。へんはての駅に下り立ち。雪あかり。さびしき町にあゆみ入りにき。明治末、釧路駅に降り立った石川啄木の歌である。鉄道の発達で日本人の行動圏は北へ南へと広がった。時代は移っても、夜汽車や終着駅が呼び起こす情緒は変わらない。150年間、鉄道は経済的価値で測れない大切なものも運んできた。時代とともに変わるべきもの、時代が変わっても残すべきもの。その双方を思う。

7月29日付
見出し募集
締め切り
9月18日

7月29日付の天声人語を読み、15字以内の見出し(句読点やかき括弧は文字数に数えませんが)、見出しを考えた理由(100~200字)を投稿してください。理由を含めて優秀作を選考します。優秀作は9月26日の朝刊で紹介し、図書カード3千円分を差し上げます。応募は専用サイト<http://t.asahi.com/manabibatenjin>から。1人で複数の応募もできます。郵送の場合、住所・氏名・年齢(在学中の場合は学年も)を記入の上、〒104・8011 朝日新聞コンテンツ編成本部「まなび場天声人語」係へ。締め切りは9月18日(消印有効)。投稿者の中から抽選で20人に、新聞を使った学びに役立つグッズを差し上げます。お問い合わせはmanabibatenjin@asahi.comへ。



応募はこちら